TADOKU JUNIOR グリム童話 ★★★★☆ ながい 938語

Fundevogel

みつけ鳥

Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)（1823年の本） 原文そのまま 朗読：Bob Neufeld

人の声の朗読を聞く・Web版

どんなおはなし？ 鳥にさらわれ、木の上で見つかった男の子フンデフォーゲルと、森番の娘リーナは大の仲よし。ところが年とった料理番が、おそろしいことをたくらんでいて……。



There was once a forester who went into the forest to hunt, and as he entered it he heard a sound of screaming as if a little child were there. He followed the sound, and at last came to a high tree, and at the top of this a little child was sitting, for the mother had fallen asleep under the tree with the child, and a bird of prey had seen it in her arms, had flown down, snatched it away, and set it on the high tree.

The forester climbed up, brought the child down, and thought to himself: 'You will take him home with you, and bring him up with your Lina.' He took it home, therefore, and the two children grew up together. And the one, which he had found on a tree was called Fundevogel, because a bird had carried it away.

Fundevogel and Lina loved each other so dearly that when they did not see each other they were sad.

Now the forester had an old cook, who one evening took two pails and began to fetch water, and did not go once only, but many times, out to the spring. Lina saw this and said, 'Listen, old Sanna, why are you fetching so much water?' 'If you will never repeat it to anyone, I will tell you why.' So Lina said, no, she would never repeat it to anyone, and then the cook said: 'Early tomorrow morning, when the forester is out hunting, I will heat the water, and when it is boiling in the kettle, I will throw in Fundevogel, and will boil him in it.'

Early next morning the forester got up and went out hunting, and when he was gone the children were still in bed. Then Lina said to Fundevogel: 'If you will never leave me, I too will never leave you.' Fundevogel said: 'Neither now, nor ever will I leave you.' Then said Lina: 'Then will I tell you. Last night, old Sanna carried so many buckets of water into the house that I asked her why she was doing that, and she said that if I would promise not to tell anyone, and she said that early tomorrow morning when father was out hunting, she would set the kettle full of water, throw you into it and boil you; but we will get up quickly, dress ourselves, and go away together.'

The two children therefore got up, dressed themselves quickly, and went away. When the water in the kettle was boiling, the cook went into the bedroom to fetch Fundevogel and throw him into it. But when she came in, and went to the beds, both the children were gone. Then she was terribly alarmed, and she said to herself: 'What shall I say now when the forester comes home and sees that the children are gone? They must be followed instantly to get them back again.'

Then the cook sent three servants after them, who were to run and overtake the children. The children, however, were sitting outside the forest, and when they saw from afar the three servants running, Lina said to Fundevogel: 'Never leave me, and I will never leave you.' Fundevogel said: 'Neither now, nor ever.' Then

said Lina: ‘Do you become a rose-tree, and I the rose upon it.’ When the three servants came to the forest, nothing was there but a rose-tree and one rose on it, but the children were nowhere. Then said they: ‘There is nothing to be done here,’ and they went home and told the cook that they had seen nothing in the forest but a little rose-bush with one rose on it. Then the old cook scolded and said: ‘You simpletons, you should have cut the rose-bush in two, and have broken off the rose and brought it home with you; go, and do it at once.’ They had therefore to go out and look for the second time. The children, however, saw them coming from a distance. Then Lina said: ‘Fundevogel, never leave me, and I will never leave you.’ Fundevogel said: ‘Neither now; nor ever.’ Said Lina: ‘Then do you become a church, and I’ll be the chandelier in it.’ So when the three servants came, nothing was there but a church, with a chandelier in it. They said therefore to each other: ‘What can we do here, let us go home.’ When they got home, the cook asked if they had not found them; so they said no, they had found nothing but a church, and there was a chandelier in it. And the cook scolded them and said: ‘You fools! why did you not pull the church to pieces, and bring the chandelier home with you?’ And now the old cook herself got on her legs, and went with the three servants in pursuit of the children. The children, however, saw from afar that the three servants were coming, and the cook waddling after them. Then said Lina: ‘Fundevogel, never leave me, and I will never leave you.’ Then said Fundevogel: ‘Neither now, nor ever.’ Said Lina: ‘Be a fishpond, and I will be the duck upon it.’ The cook, however, came up to them, and when she saw the pond she lay down by it, and was about to drink it up. But the duck swam quickly to her, seized her head in its beak and drew her into the water, and there the old witch had to drown. Then the children went home together, and were heartily delighted, and if they have not died, they are living still.

むかし、ある森番が森へかりに出かけました。森に入ると、まるで小さな子どもがいるような、泣きさけぶ声が聞こえてきました。森番が声のするほうへ行ってみると、とうとう高い木のところに来ました。そのてっぺんに小さな子どもがすわっていたのです。お母さんがその子をだいて木の下でねむってしまったところ、えものをねらう大きな鳥が、お母さんのうでの中の子どもを見つけて、まいおりてきてさらっていき、高い木の上においたのでした。

森番は木にのぼって子どもを下ろし、心の中で思いました。「この子を家に連れて帰って、うちのリーナといっしょに育てよう。」そこで森番はその子を家に連れて帰り、二人の子どもはいっしょに大きくなりました。木の上で見つけられたその子は、鳥にさらわれたので、フンデフォーゲル（みつけ鳥）とよばれました。フンデフォーゲルとリーナは、たがいにとても仲よしで、顔を見ないと悲しくなるほどでした。

さて、森番の家には年とった料理番のおばあさんがいました。ある晩、そのおばあさんはおけを二つ持って水をくみはじめ、一度だけでなく、何度も何度も泉まで出かけていきました。リーナはそれを見て言いました。「ねえ、ザンナばあや、どうしてそんなにたくさん水をくむの？」「だれにも言わないなら、わけを教えてあげるよ。」そこでリーナが、ぜったいにだれにも言わないと答えると、料理番は言いました。「あしたの朝早く、森番さんがかりに出かけたら、この水をわかすんだよ。そしてかまの中でぐらぐらにえ立ったら、フンデフォーゲルを投げこんで、にてしまうのさ。」

次の朝早く、森番は起きてかりに出かけました。森番が出かけたとき、子どもたちはまだベッドの中にいました。するとリーナはフンデフォーゲルに言いました。「あなたがけっしてわたしからはなれないなら、わたしもけっしてあなたからはなれないわ。」フンデフォーゲルは言いました。「今も、これからも、ずっときみからはなれないよ。」そこでリーナは言いました。「それなら話してあげる。ゆうべ、ザンナばあやがたくさんのバケツで水を家に運びこんでいたから、どうしてそんなことをするのかきいたの。そうしたら、だれにも言わないと約束するならって言って、あしたの朝早く、お父さんがかりに出かけたら、かまに水をいっぱい入れて、あなたを投げこんでにるって言ったのよ。でも、わたしたち、すぐに起きて着がえて、いっしょににげましょう。」

そこで二人の子どもは起きて、大いそぎで着がえ、出ていきました。かまの水がにえ立つと、料理番はフンデフォーゲルを連れてきてかまに投げこもうと、寝室へ入っていきました。ところが入ってきてベッドのところへ行ってみると、子どもは二人ともいなくなっていました。料理番はひどくあわてて、ひとりごとを言いました。「森番さんが帰ってきて、子どもたちがいないのを見たら、なんと言えばいいんだろう。すぐに追いかけて、連れもどさなくちゃ。」

そこで料理番は、三人のめしつかいに子どもたちのあとを追わせ、走って追いつくように言いつけました。ところが子どもたちは森のはずれにすわっていて、三人のめしつかいが走ってくるのを遠くから見つけると、リーナはフンデフォーゲルに言いました。「わたしからはなれないで。そうしたら、わたしもあなたからはなれないわ。」フンデフォーゲルは言いました。「今も、これからも、ずっと。」するとリーナは言いました。「あなたはバラの木になって。わたしはその上のバラの花になるわ。」三人のめしつかいが森に来てみると、そこにはバラの木が一本と、その上にバラの花が一つあるだけで、子どもたちはどこにもいませ

んでした。そこでめしつかいたちは言いました。「ここではどうしようもない。」そして家に帰り、森には花が一つさいた小さなバラの木のほかには何も見えなかったと、料理番に話しました。すると年とった料理番はしかりつけて言いました。「このまぬけ！そのバラの木を二つに切って、花をつみ取って持って帰ってくればよかったんだよ。さあ、すぐに行ってそうしておいで。」そこでめしつかいたちは、もう一度さがしに出かけなければなりませんでした。けれども子どもたちは、めしつかいたちが来るのを遠くから見つけました。するとリーナは言いました。「フンデフォーゲル、わたしからはなれないで。そうしたら、わたしもあなたからはなれないわ。」フンデフォーゲルは言いました。「今も、これからも、ずっと。」リーナは言いました。「それなら、あなたは教会になって。わたしはその中のシャンデリアになるわ。」それで三人のめしつかいがやってきたときには、そこには教会と、その中のシャンデリアがあるだけでした。そこでめしつかいたちはたがいに言いました。「ここで何ができるっていうんだ。家に帰ろう。」家に帰ると、料理番は、子どもたちは見つからなかったのかとききました。めしつかいたちは、見つからなかった、教会が一つあって、その中にシャンデリアがあっただけだと答えました。すると料理番はしかりつけて言いました。「このばかものたち！どうして教会をこわして、シャンデリアを持って帰ってこなかったんだい？」そこで今度は、年とった料理番が自分で立ち上がり、三人のめしつかいといっしょに子どもたちを追いかけていきました。けれども子どもたちは、三人のめしつかいがやってきて、そのあとから料理番がよたよたついてくるのを、遠くから見つけました。するとリーナは言いました。「フンデフォーゲル、わたしからはなれないで。そうしたら、わたしもあなたからはなれないわ。」するとフンデフォーゲルは言いました。「今も、これからも、ずっと。」リーナは言いました。「池になって。わたしはその上のカモになるわ。」料理番は子どもたちのところまでやってきて、池を見ると、そのそばにはらばいになって、池の水を飲みほそうとしました。ところがカモがすばやく泳いでいって、くちばしで料理番の頭をくわえ、水の中へ引きこみました。こうして年とった魔女は、おぼれてしまいました。それから子どもたちはいっしょに家に帰り、心から喜びました。二人がまだ死んでいなければ、今も生きていることでしょう。

たんご と クイズ みつけ鳥

tree 木	**bird** 鳥	**pails** おけ、バケツ
kettle かま、なべ	**rose** バラ	**church** 教会
chandelier シャンデリア	**duck** カモ、アヒル	

Q1 フンデフォーゲル（みつけ鳥）という名前は、どうしてつけられたの？

① 鳥のように歌がうまかったから　② 鳥にさらわれて木の上で見つかったから　③ 鳥をかっていたから

Q2 1回目に追っ手が来たとき、二人は何に姿を変えた？

① 教会とシャンデリア　② 池とカモ　③ バラの木とバラの花

Q3 最後に料理番はどうなった？

① カモに水の中へ引きこまれた　② 森で道にまよった　③ 二人をゆるしてくれた

こたえ

Q1 ② 大きな鳥にさらわれて、高い木の上で森番に見つけられたので、フンデフォーゲル（みつけ鳥）とよばれました。

Q2 ③ フンデフォーゲルがバラの木に、リーナがその上のバラの花になりました。めしつかいたちは気づかずに帰っていきました。

Q3 ① 池の水を飲みほそうとした料理番の頭を、リーナがなったカモがくわえて、水の中へ引きこみました。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #2591（Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)、1823年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Bob Neufeld（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。